

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策

( 中間 (最終) )

広南中学校区 校番 2 学校名 呉市立広南中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	(貫)9年間を通して、確かな学力を育成する	(貫)子どもの問いを生かした「考える授業づくり」を推進させた授業改善  妥当性、信頼性を高めていく評価改善	<p>・「ICTの効果的な活用」「三角ロジック」についての教師は肯定的評価が69%と、中間評価を24%上回ったが、目標値には達していない。「ICTの効果的な活用」については、資料提示による視覚支援、ロイノートを活用したグループ交流、デジタル教科書の活用等など、十分活用できている。「三角ロジック」の活用は、教師の肯定的評価が64%と、中間評価を上回ったものの、さらに研修を進めていく必要がある。</p> <p>・「授業では理由を明らかにして発表している」生徒は93%と、目標値を上回った。授業において、「三角ロジック」の話型等を用いながら、発表する機会を意図的に設定することができた。さらに、根拠を明かにする表現方法を指導する必要がある。</p> <p>・研究授業における授業観察者の「評価シート」による評価では、A以上の割合が100%であり、十分達成されていると考える。</p> <p>・「課題発見・解決学習」についての生徒アンケートの肯定的評価は90%で、中間評価を5%上回った。単元を通して、自分の考えと他者の考えを比較する場や自分の考えを再構成する場を設定し、振り返りの時間を十分に確保するなど、授業づくりの工夫の成果が表れていると考える。</p>	<p>・ICTの活用については、授業場面だけでなく、Qubena等を活用し家庭学習でも効果的に活用できるよう設定する。</p> <p>・「三角ロジック」を活用する場面を、意図的に仕組むよう授業改善を進めていく。また、表現することが苦手な生徒が取り組みやすい「話型」を提示し、個に対応した支援を実践する。</p> <p>・他の生徒の意見を踏まえた発表や議論の場面を意図的に授業に取り入れ、対話的で協働的な学びの場を設定する。</p> <p>・評価規準や評価方法の妥当性、生徒が自らの学習を調整することができる振り返りの工夫などに留意して、授業研究や協議等を行う。</p> <p>・生徒が意欲を持って探求する課題の設定や発表の方法、振り返りの時間の十分な確保などの工夫を継続して行う。</p>
**	(貫)礼節と挑戦心を身に付け、健やかでたくましい心と体を育成する	生徒の相互指導能力の向上による学校の伝統文化の継承・発展  体力の向上  不登校・低学力等の課題への組織的な対応能力の向上	<p>・「生徒会、委員会の提案する活動に積極的に協力しています」の生徒の肯定的評価は93%と、目標値を達成し、中間評価を上回った。文化活動発表会の成功に向けて、生徒が自主的・意欲的に活動に取り組めたと考える。</p> <p>新体力テストの結果を県及び全国平均と比較してみると、身長・体重の体格面では3年になって平均に近づく傾向にある。体力特性別に傾向をみると、スピード、投力、握力は平均を上回っている。また、男子は持久力、筋持久力に関して平均以上の数値が出ている。男女とも柔軟性、敏捷性については平均を下回る結果となっている。</p> <p>・「生活リズムを整えて生活している」生徒の割合は80%と、目標値を下回った。学年別にみると、1年(65%)、3年(84%)が目標値を下回った。3年は受験勉強に時間を割いているため、1年は生活リズムが整わない生徒が多いためと考えられる。2年は90%と改善傾向にある。</p> <p>・「将来の夢や目標を持っている」生徒の割合は82%と目標値を下回った。学年別にみると、1年(76%)、2年(80%)が目標値を下回った。進路について不安を感じる時期でもあるので、進路を見通した取組が必要である。</p>	<p>・3学期は生徒会活動で「小さな親切プロジェクト」を実施する。プロジェクトを通し、望ましい人間関係の形成、集団への所属感や連帯感を深め、よりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p> <p>・生徒会活動や学校行事等で生徒一人一人が活躍できる場を設定し、自己有用感や達成感を味わえるよう、活動意欲の高揚に努める。</p> <p>スピードについては体育の授業で重点的に行なった成果が出てきている。反面、課題となるのが柔軟性と敏捷性。柔軟性の大切さについて伝え、授業でストレッチを取り入れ改善していきたい。敏捷性は球技での切り替えが素早くできないことがあるので、サイドステップなどのステップワークを授業の体づくり運動で取り入れ改善していきたい。</p> <p>・生活リズムを整えられるように、面談等による実態の把握と指導・改善を行う。また、月1回実施している生活アンケートや面談を通して全職員が生徒の様子を把握し、組織的に対応できるよう取り組む。</p> <p>・総合的な学習の時間の学習を中心として、自分の夢や目標に向けて努力することの大切さを実感できるように指導を行う。また、ドリルタイムを活用し、個々の課題に応じた個別支援を強化し、学力の底上げを図る。</p>
*	(貫)自己有用感を高め、活力を生み出す学校をつくる	地域に感謝・貢献し、地域の人材を活用しながら地域と協働できる場の充実  (貫)生徒の「自分の命は自分で守る」力の育成	<p>「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができます」に対する肯定的評価は84%であった。中間評価(64%)を上回ったが、目標値の90%には達しなかった。文化活動発表会(広南劇場)に向けた取組等で、地域に感謝・貢献する意識は高まったが、学習指導の改善が必要である。</p> <p>・「防災について、家族や地域の人たちと関わりながら、自分の命は自分で守る力をつけている」生徒の割合は目標値を上回った。しかし、学年別にみると、1年が6%、2年が7%中間評価を下回っている。1学期は主に土砂災害について考えたが、2学期は、地震津波の避難訓練を行った。土砂災害以外の災害に対する備えについて不安があると考えられる。</p>	<p>地域の声を聞いたり、調べたりして課題意識や志をもたせる過程を大切に。そして、最初に抱いた課題意識や志を終始振り返らせながら、最後まで活動を充実させる。総合的な学習の時間の取組について、校内企画委員会で進捗状況を交流、相談し合いながら、学校全体で進める。</p> <p>引き続き、年間計画に沿って地域と連携しながら各災害に対する学習や避難訓練を進めていく。その中で、体験活動を行い、自分で判断をする場面を設定して、「自分の命は自分で守る」力を育成する。</p>
業務改善	(貫)働き方改革を推進する	長時間勤務の縮減に向けた業務改善	時間外勤務時間45時間未満である教職員の割合は60%であった。授業や行事の準備、また、新校務支援システムの運用にも時間を要している。	行事計画の確認や企画委員会での検討を丁寧に行うことで、業務量のバランスを考えた適切な役割分担や、見直しを持った計画的な業務遂行ができるようにする。





